共に生きる地域を目指して

重症心身障害者を守る会

栗原市に誕生、県内3番目

知的障害と身体障害を併発する重症障害者の家族たちでつくる「栗原市重症心身障害児（者）を守る会」が、このほど発足した。

守る会は、東京に本部を置く「社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会」の宮城県支部栗原分会として設立。県内の分会では三カ所目となる。栗原市内に住む重症者の保護者八人で構成されている。

設立に当たり、栗原市農村環境改善センターで発会式を開催。重度障害者の保護者や関係者ら約百人が集まった。

発会式ではまず、県の守る会会長の秋元俊道さんが「地域住民に重度障害者の実態やありのままの姿をより理解してもらい、暮らしやすい社会を目指してほしい」とあいさつ。

栗原市の守る会会長の曽根紀子さんは「県支部と連携を図りながら、末永く活動していきたい。皆さんのご支援をよろしくお願いします」と述べた。

その後、仙台市の在宅緩和ケアセンター〝虹〟の理事や、県の守る会幹事などを務める阿部[illegible]さんが記念講演した。

阿部さんは「地域における重症心身障害児・者の福祉の現状と未来」と題して講演。有病率や全国と県内の受け入れ施設数、床数など、重症者を取り巻く現状を紹介したほか、重度障害者を持つ若い親が孤立感を抱かないよう、支援する必要性を訴えた。

重度障害者が地域で共に生きる社会を目指すうえで、地域住民の意識改革などが必要とも強調。阿部さんは「一般の方に最初から理解してもらうのは難しいかもしれないが、例えば行政に要望を届けるなら、子どもを一緒に連れて行き、職員に子どものことを知ってもらうなど、地域と支え合うことも大切」と呼び掛けた。

栗原市の守る会によると、市内には重症者の通園施設やショートステイ施設がなく、行動を通して、福祉の課題や改善点を探る考えだ。会報の発行や役員会を定期的に行うほか、県支部の事業への参加なども積極的に進める。

問い合わせは、栗原市重症心身障害児（者）を守る会会長の曽根さん、電話0228（52）4141へ。

発会式には約100人が集まった